

平成28年度岩手県立種市高等学校  
第一回学校評議員会 記録

期 日 平成28年6月22日(水) 16:00~17:00

場所 本校 応接室

出席者 学校評議員 A氏(地域関係者)

B氏(地域関係者)

C氏(教育関係者)

D氏(地域関係者)

E氏(地域関係者)

学校職員 校長、副校長、事務長、総務部長、総務部員

1 開 会

2 校長あいさつ

3 出席者あいさつ

4 学校概況説明

(1) 学校経営計画(校長より)

(2) 学校状況報告(副校長より)

(3) 進路状況報告と高総体の結果(副校長より)

5 質疑【評：学校評議員、○：本校職員】

評：生徒たちは挨拶もしっかりできているし、立派だと感じている。新聞等でも学校のことを取り上げられ、特に海洋開発科は全国でも取り上げられている。その反面、入学者数は減っていて宣伝効果と現実のギャップを感じている。

○：普通科の場合、少子化が影響し中学校の卒業生数が減っていることが関係している。また、電車があるため学力の高い生徒は八戸や久慈の高校へ進学していくケースも多い。そして、高校選択の際、重要となるのが高校卒業後の進路を見通しての判断であるため、その点を考慮して本校ではなく八戸や久慈の高校へ流れていく。海洋開発科の場合は、数年、入学者数は少しずつではあるが増加傾向にある。県外へのアピールを行っているため、県外からの入学者も増えている。

評：運動ができる生徒だとレスリング部に勧誘されるため、それが関係して入学者数が減っているのではないかと。

○：運動能力の高い生徒に全国を目指してみないかと声をかけることはあっても、無理な

勧誘はしていないと考えている。また中学校にはあっても、本校にはないという部活があるため、他校に流れている部分もある。部活を増やしすぎても、1つ1つの部活を強化できなくなってしまう。簡単には増やすことはできないが、生徒の意見も尊重していきたいと考えている。

評：学校経営計画の中で進路指導の充実を掲げている。近年、介護分野において役場からの助成などもあるが、介護分野には力を入れているのか。介護職員を増やしていきたいので、進路指導でも力を入れてもらいたい部分である。

○：他校では振興会で介護分野に力を入れて福祉の人材育成をしている。本校では介護職を目指している生徒もいるが、まだまだであるため今後介護分野のところも視野に入れて進路指導していきたい。

評：介護分野へ進学しても都会へ就職してしまう生徒が多いため、助成金制度や奨学金制度などをいかして地元に残ってほしい。

評：進学希望者への補助というのがあるが、これはどのようなものなのか。

○：年に数回ある模試での、費用を補助していくものである。

評：対象人数はどれくらいなのか。

○：希望者と学力を照らし合わせ、各学年8～10人ずつを予定している。年間18万円程度を補助として当てている。希望者は増加していて、進学に対しての意識が高まっているように感じる。

評：センター試験を受けている生徒はいるのか。

○：10名弱程度である。国公立大学だけでなく、私立大学の入試にも関わるので、大学を目指すなら、受けるべきものと考えている。また、センター試験だけでなく推薦受験もある。

評：推薦の枠があるということなのか。

○：センター試験では合格が難しい生徒でも、学力の基準を満たし、意欲や実力のある生徒を推薦受験させている。

評：家の事情や経済的な面から進学をあきらめている生徒もいると思う。奨学金の制度を知らない家庭もあると思うので説明会などをしてほしい。

○：本校では、奨学金の説明会等を行っているが、なかなか浸透していかないという課題もある。

評：プリント等で連絡しても、生徒が保護者に渡していない可能性がある。

○：メール配信システムを開始したので、メール配信で書類を配布した連絡をするなど、そういう部分も進めていきたい。

## 6 提言

A氏：進路の面において介護分野への進学・就職はとても良いことであると思う。役場でも奨学金制度等があるため、介護分野への進学・就職に力を入れてほしい。

B氏：進学希望者への補助をしていくことで進学率がアップし、種市高校のPRにつながる。

種市高校に入学すると大学進学を目指すことができるということを子どもたちに伝え、入学率アップにつなげてほしい。

C氏：今後も種市高校・地域にとってメリットのあることを模索して行ってほしい。そこから地元の子どもたちが増えることにつながっていけば良い。

D氏：生徒たちは素直に育っていると思う。これからも生徒たちのボランティア精神を高め、世界に羽ばたけるような指導をしてほしい。

E氏：資格等を取得し力を備えて就職や進学へとつなげて行ってほしい。

7 その他

8 閉会